

患者と共有する看護計画の試み

～立案・実施・評価～

○鈴木 日和, 鈴木 理恵, 工藤つむぎ, 高橋 泉, 笹尾あゆみ, 南雲ひとみ

The try of nursing plans sharing with patients.

Key Words :

帝王切開術・看護の共有・患者の満足・不安・看護計画

要 旨

近年、医療の現場において患者の意思を尊重し、患者参加の看護計画を実践することが求められている。私たちは患者にとってより満足度の高い看護を提供するために、今回帝王切開術を受ける患者を対象をしぼって、患者の思いを共有し、その希望を取り入れた内容の計画を共に立案・実施・評価することを試みた。またスタッフ間でも計画を共有し、統一されたケアの提供を心がけた。退院時の感想から、患者自身の評価としてスタッフ全員が自分の考えを理解し、援助してくれているという安心感と満足感をもたらすことができたという結果を得られたと言える。今回の研究ではさらなる看護の質の向上のために、患者や家族と看護計画を共有し、表出された問題点を解決していくことの重要性を改めて意識づけることが出来たと考えられる。

はじめに

当院では2003年度看護局の目標を「患者、家族と看護を共有する」と設定した。従来の看護を振り返ると、看護者側から一方的に提供するものであり、そこには患者の意思は反映されず、患者の満足、納得について十分な考慮がなされているとは言えなかった。

そこで今回、帝王切開術（以下帝切）を受ける患者に対し、患者の意思を計画に反映させることにより患者の満足が得られると考え、共に計画の立案・実施・評価を行った。

その結果、同意の得られた9事例についてここに報告する。

1. 研究方法

期間 2003年8月27日～2004年3月5日

対象 帝切を受け、共に看護計画を立案することに同意を得られた患者9名

方法 入院時に術前・術後の不安や要望についてのアンケートを取り、アンケート内容をもとに患者と共に看護計画を立案。術前・術後2日目・5日目・

8日目・10日目に評価、計画修正。退院時に実施した結果についての感想を聴取またはアンケートを取った。

2. 結 果

入院時の不安・要望・実践した看護・退院時の感想を表1に示した。その結果では全事例が自分の希望や意見を看護者側に伝えることができ、自分の考えに沿った援助を受けられた、説明や指導内容を意識し、実際に行動できた、と答えている。助産師が自分の考えを理解し、希望に沿えるように援助してくれた、と感じた患者は8名であった。

3. 考 察

今回の研究は看護者側で一方的に必要なことを話すだけではなく、患者の持つニーズに対し、共に計画を立て援助していくという方向性を伝え、患者自身の言葉で具体的に表出できるようなアンケートを作成し、術前に記入してもらった。

9名中、初産婦は3名であったが帝切自体の不安に加え、今後の育児についても不安を抱いていた。

1)「入院中母親は次々起こる事柄を『それでいいのよ』と保証され、説明され、そして具体的な方法の実演を見ることで、多くの観察力や育児技術を安心感と共に獲得できる」と述べている。育児に関しては何事にも未熟な傾向にあったが、育児行動に対して自信をもてるように良い部分を認めたことで、育児に前向きに取り組んでいけるようになった。

帝切経験者は、4名でありそのうち2名は共に33週の早産の緊急帝切であり、児はすぐに保育器収容となったため、早期対面が出来なかったとのことから児娩出後すぐに面会し、出来るだけ早期に授乳を開始したことで満足感・安心感を得ることが出来たと思われる。帝切経験者は前回の経験から辛かったことや心配なことを痛みとして具体的にあげていた。未経験者も未知の体験・痛みに対する不安をあげており、9名中6名が「痛み」という言葉を用いて不安を表出していた。事前に痛みに対する対処の方法を伝え、早期に介入をしたことで不安が軽減できた。術後疼痛を十分に管理することは、術後の回復が早まるのみならず個々の患者の満足度も高まると考えられる。

今までの私たちの患者に対する関わりは、予測された問題を看護者側のみで判断・修正していた。今回患者と共に問題を考え、評価を行ったことで、両者間での意思の疎通がはかれ、ケアの方向性が統一できた。さらに決まった受け持ち看護師が中心とな

り継続して看護を受けるということは安心につながったと考えられる。また、患者が満足したという評価は看護者がするのではなく、看護を受ける患者自身に表現されてこそできるものである。退院時の感想から、患者にとって満足度の高い援助を提供することができたと言える。

おわりに

今回の研究結果は、対象が9事例の少数で得られたものであり、限界がある。また全例が望まれた妊娠であり、術後経過も順調であったため患者の協力も得られ、良い結果が得られた。しかし帝切をうける患者すべてがそうではない部分もあり、その様な患者の援助のあり方についても今後、患者や家族と看護計画共有することを継続し、表出された問題を解決していくことで看護の質を向上していきたい。

引用・参考文献

- 1) 系統看護学講座 専門23 母性看護学2 1998 p 342
- 2) 新道幸恵他：母性の心理社会的側面と看護ケア
- 3) 岡野眞規代他：特集 受け持ち制看護を考える perinatalcare vol15 no.5 1996
- 4) 井上裕美他：特集 周産期のクリティカル・パス perinatalcare vol19 2000

表 1

事 例	不安、要望	提供した看護内容	感 想
N氏 36歳 初産 双額双角子宮	術後痛みがいつまで続くか、 帝切で突然お腹を切って出 てくることで、赤ちゃんがびっ くりするのではないか、赤ちゃん が小さめでちゃんと大きくな るか	鎮痛方法について説明。帝切児 の特徴を説明。出産直後の児の 状態を知らせ、早期に児とのスキ ンシップを図る。体重だけの問題 でないことを知らせ、育児技術の 習得の中で不安の軽減を図った	児との対面では泣きながら喜んだ。 術後の痛みは自製内で早期離床 を図れた。育児技術はほぼ自立し 退院時「授乳は根気よくすることが 大切。おっぱいがいっぱい出るよ うになり良かった」
F氏 28歳 反復帝切	前回術後のベッドが硬く、 辛かった。 説明と痛みの除去	自室のベッドを使用。 わかりやすい説明を心がけた。 痛みは鎮痛剤を適宜使用した。	「自分が不安に感じていることを明 きらかにして伝えられたことが良か った」「看護師さんが全員理解して くれた」
S.N氏 30歳 反復帝切	前回創がすごく痛くて動けな かった。 赤ちゃんに会えなくて心配で 辛かった。	鎮痛剤を適宜使用した。 児娩出後すぐに面会。 初回授乳を早期に行った。	共に看護計画を立案したことで「目 標があったので不安が少なかった」 「計画に合わせて指導してくれて良 かった。コミュニケーションもたくさん 図れ、自分の考えを理解してくれて いた」
H氏 29歳 初産 双胎	術後痛みがどのくらいか不安。 不安なので声を掛けて欲しい。	鎮痛方法について説明。痛みに ついては適宜鎮痛剤を使用。 初産で育児技術不慣れのため、 母児同室時は本人と話し合い、 一人ずつ同室し、母体の疲労に 配慮した。	説明・指導はわかりやすかったし、 役に立った。想像以上に傷が痛か った。もう二度と生みたくないと思 った。またお産するなら痛みを何とか してほしい。
Y氏 38歳 高齢出産 筋腫核出術後	前回の手術で麻酔が完全に 覚めるまでの足の痺れが苦痛 だった。 どれくらいの痛みか不安。 困ったときには助けて欲しい。	麻酔に関する副作用を事前に 説明。鎮痛剤を適宜使用。 日々の育児行動の中で不安や 心配なことを聞き出し、アドバイ スを行った。	不安なく任せることができた。パン フレットや説明など不足はなかった 沐浴指導や小児指導は役に立っ ている。痛みはそれほど強くなか ったし、援助にも不足はなかった。
M氏 39歳 経産 骨盤位 (複殿位)	切るという事が怖い不安。 できるだけ薬を使いたくない。 術後痛みがどのくらい辛い のか、いつまで続くのか、生ま れてくる赤ちゃんの状態が心配	本人の希望を尊重しながら鎮痛 処置を勧めた。 エピ以外の鎮痛剤を使用せず、 自製内で経過した。	丁寧に教えてくれて有難かった。 事前に説明があることでわかりやす かったし、パスは良い目安になった 乳房ケアをしてくれたり、希望を何 でも受け入れてくれ、親切にしま らった。
S.M氏 37歳 経産 反復帝切	前回緊急帝切になり、術後、 子宮内感染を引き起こし大変 だった。前回のお産はお任せ 医療となり、その結果、説明 不足や術後の身体の不調で 多くの不信感や後悔が残った	前回の経験を聞き、どの点が不 案であつたか、今回はどのような お産を希望しているかを確認。 詳しい説明を心がけ、医師との 連携を密にして、できるだけ本人 の希望に添えるように援助した。	手術が終わった後で、ここのお産は 前のようにひどくなかった。何回も同 じことを聞いたのに皆きちんと答え てくれた。それぞれの言葉で解かり 易く説明してくれた。何で今まで帝 切を否定していたのかと考えてしま った。自分の中で良かったと言える お産ができた。
H氏 29歳 経産 反復帝切	術後の足の痺れで、夜眠れ なかった。 なかなかガスが出なかった。	創痛コントロールをしながら、早期 離床を促した。	皆が色々教えてくれて有難かった。 前回よりも気持ちよく入院生活を過 ごせた。
K氏 33歳 経産	創の痛みはどのくらい続くのか 是非、母乳で育てたい。	鎮痛剤を適宜使用し、コントロール を図った。創痛に配慮しながら、授 乳指導を行った。 わかりやすい説明を心がけた。	自分の希望や意見を伝えることが でき、それに沿って援助して貰えた 創が痛くてミルクでいいと思ってしま ったが、痛みをコントロールしながら 根気強く教えてもらったことにより、 がんばろうという気持ちになった。

看護の参考にさせていただきますので、下記の質問にお答えくださるようお願いいたします。

- 1 看護計画の内容はあなたの考えにそったものでしたか？

- 2 看護計画の内容は分かりやすいものでしたか？

- 3 看護計画の内容を意識し、実際に行動できましたか？

- 4 看護師はあなたの考えを理解し、計画通りに援助してくれましたか？

その他

ご協力ありがとうございました

アンケート②

帝王切開を受ける産婦さんへ

私たちは安心して手術がうけられ、元気なお子さんを出産できるよう、また、手術（出産）後順調に回復し、授乳・育児がスムーズにでき安心して退院できるように一緒に考え、お手伝いしたいと思っています。看護の参考にさせていただきますので、下記の質問にお答え下さるようお願いいたします。

1. 手術についての先生の説明は理解できましたか。①できた ②まあまあできた ③どちらともいえない
④できないところがあった ⑤できない

①から⑤と答えられた方にお聞きします。それはなぜですか？

2. 手術の経験のある方にお聞きします。以前手術を受けられた際つらかったこと、困ったことは何ですか。
3. 帝王切開で出産されることについてどんな印象をお持ちですか。
4. 入院中のスケジュールをご覧になってわからないこと、心配な項目がありましたら教えて下さい。

(複数回答可)

- ・ 麻酔について ある(どのような?) ない
- ・ 処置(毛をそること 浣腸 傷の消毒 抜糸 出血の状態をみる) ある(どのような?) ない
- ・ 点滴、薬 ある(どのような?) ない ・ 手術後の安静について ある(どのような?) ない
- ・ 排泄について ある(どのような?) ない
- ・ 清潔(身体を拭くこと シャワー) ある(どのような?) ない
- ・ 傷(大きさ、位置) ある(どのような?) ない
- ・ 痛み(傷の痛み、子宮が元に戻るときの痛み)について ある(どのような?) ない ・ その他

5. 母乳栄養についてお聞きします。 母乳で育てたいですか。(是非母乳 できれば母乳 こだわらない)

6. 退院後の生活についてお聞きします。

里帰りする 自宅(手伝いあり なし) 仕事復帰(する しない)

7. 産後の生活や育児について知りたいことは何ですか。○で囲んで下さい。

抱っこのさせ方 着がえのさせ方 おむつ交換の仕方 お風呂の入れ方 授乳の方法(おっぱいのふくませ方、ゲップのさせ方) おっぱいの手入れの仕方 おすその消毒の仕方 その他

8. 入院中に助産師、看護師にこうしてほしいと望むことは何ですか。

9. 赤ちゃんとの関わりで一番楽しみにしていることは何ですか。

10. 経産婦さんにお聞きします。十分な説明が受けられなくて困ったこと、入院中に大変だったことがあれば教えてください。ご協力有難うございました。 4階南病棟